

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800080		
法人名	医療法人社団共寿会		
事業所名	グループホーム萩原福寿苑		
所在地	岐阜県下呂市萩原町古関126-1		
自己評価作成日	令和3年7月18日	評価結果市町村受理日	令和3年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyosyoCd=2192800080-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年8月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念～人と自然が共に暮らす空間 お年寄りひとりひとりが住み慣れた地域で ふつうにくらせる しあわせを～ 広い敷地内で安全に車椅子の方でも散歩して頂ける。春には桜、秋には紅葉が直ぐ近くで見られ自然に恵まれた環境である。どの方も、その人らしく尊厳を保ちながら家庭的な雰囲気の中で過ごして頂く。家族や地域との関係を大切にしながら其々の役割を持って生活して頂く。家族、かかりつけ医と連携をとり尊厳に配慮しながら穏やかな終末期を迎えて頂く。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、事業所内に立ち入ることなく、中庭にてヒヤリングを実施し、窓越しの見学となった。利用者は、自由に車椅子や福祉用具で移動ができ、散歩とりハビリを兼ねたレクリエーション等も楽しんでいる。地元に住む職員も多く、住み慣れた地域で、利用者と共に過ごす時間を楽しみと思える家庭的な支援を心がけている。また、様々な課題を話し合い、介護のプロとして資質向上に努め、より良い利用者サービスに繋げている。管理者と職員は、利用者と家族の意見や思いを聞き、協力医やかかりつけ医と連携しながら、それぞれが責任を持って役割を果たせるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「住み慣れた地域で普通に暮らせるように」と、常にケアの基準としている。いつでも目につく場所に目標を掲示し、共有しながら実践に努めている。	常に理念を意識した対応ができるよう、目につき易い場所に支援目標を掲示している。職員は、利用者が、いつまでも健康で生きがいをもちて暮らせるよう、日常の会話の中で「理念」を話題にし、共に共有しながら実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナウイルスの影響の為、施設外への外出は積極的に行っていない。区からの回覧板や広報で情報を得ている。	自治会に加入し、地元の行事については連絡を受け参加をしていた。また、ホームのひな祭りに地域の子供が訪れた際には、利用者がお菓子を配ったり、近隣の保育園から野菜が届けられるなど、地域の付き合いが日常的に出来ていた。現在は、新型コロナ感染予防、拡大防止の為、交流が困難となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染症対策中にて難しい。地区役員へは日々の活動報告を配っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症拡大防止の為、文章での開催を行っている。事業所でのコロナウイルス感染症対策についての報告もしている。	運営推進会議は、区長、民生委員、行政、家族が参加して意見交換を行い、参加者が増えるよう、日程や時間など工夫していたが、現在は、感染予防対策として、文書にて開催、活動状況や予定等を報告、関係機関、近隣に配布をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルス感染症対策中にて、文章で報告し、不明な点は電話やメールにて連絡を取り合い協力関係を築くようにしている。	行政とは、電話やメールで介護保険の動向や困り事などを相談したり、新型コロナ関連情報や災害発生時の緊急連絡を受けるなど、日常的に連携を取っている。行政主催の研修会に参加し、利用者サービスにつなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、委員会を開き、不適切ケアと思われるケアが行われていないか話し合いケアの確認と改善に導いている。	毎月開催のリーダー会議に合わせ、虐待防止・身体拘束廃止委員会を開催している。「根拠を持った行動をし、周囲に伝えよう」をスローガンに、勉強会でも、虐待及び不適切ケア防止の為に話し合い、情報を共有している。より良いケアを行う為に、常に自分に置き換えて考え、ヒヤリハット報告書も全職員が閲覧し、確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に二回の勉強会を行い、意識の向上に努めている。入浴時や更衣時に身体の確認を行い、事故報告書にて皮下出血や外傷の報告、周知し日常のケアの見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オンライン研修にて全員が学べるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書等すべて読み合わせを行い、納得されるまで説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。面会時や電話の機会の時に話を伺い、ご意見は職員全体で検討し対応の改善に努めている。	利用者の日常生活や行事の様子が分かるよう、毎月のホーム便りに写真を掲載し、担当職員が、利用者の状況を細かく記載して、それぞれの家族に送付している。電話やメール等でも、個別対応を行いながら、家族との絆を大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、リーダー会議にて職員全体の意見や提案を聞く機会がある。業務改善に向けてその意見を反映させている。	職員は利用者と共に過ごす日々が、「学びの場」であると考え、プロとして自信を持って支援に取り組んでいる。管理者も現場に入り、職員が自分の言葉で提案や意見を発言できるよう信頼関係作りに努め、資格取得を奨励し、職場環境及び就業環境の整備に取り組んでいる。	新型コロナウイルス感染拡大が続き、予防対策が大変な中ではあるが、利用者が楽しく過ごせるようアイデアを出し合っている。終息後には、以前のように、地域の一員としての時間や家族との関わり方ができるよう検討中であり、実現を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤怠状況や健康状態を把握して積極的に職員の声を聴く姿勢をとっている。有給休暇の取得。休憩時間は一時間休む。休憩室にはソファを設置し、労働環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染症対策より、オンライン研修にて全員が学習できる場をつくっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症対策中にて交流の場は避けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査から本人への事業所の説明やホーム内の見学ができない分、写真にて事業所の雰囲気を見て頂き少しでも不安が解消するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナウイルス感染症対策中にて面会制限がある為、日々の様子がわかるよう写真や手紙、電話にて様子をお伝えし、意見を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や地域の方との関係を継続できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にお茶を飲んだり会話をし、職員は共に過ごすパートナーとして、共に過ごし支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話がある時に報告し、毎月写真付きの手紙で日々の様子を報告し、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症対策中にて外出は控えているが、窓越し面会やオンライン面会にて関係継続の支援に努めている。	地元に住む職員が多く、利用者に馴染みのある地域の言葉で会話をしている。現在、直接の面会は困難の為、感染予防対策として、窓越しの面会やオンラインでの面会を実施し、家族に喜ばれている。定期的にパンの移動販売受け入れも行い、利用者も自分で購入している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人と近くに居られる配慮。職員が間に入り仲介することで、より良い関係を継続できるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談できる、気軽に訪問して頂けるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、仕草から、ご本人の思い等を読み取るよう努めている。	虐待防止・身体拘束廃止委員会の中で、「見守りと監視の違い」について学んでいる。常に利用者の様子を「意識して見る」ことで、利用者の思いを推測し寄り添いながら、本人本位の支援と希望の実現に向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネジャーや家族、本人より話を聞き、今までの生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や伝達ノート、申し送りにて情報共有している。日々のケアの中での現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い定期的に家族の同意を得ている。本人、家族の希望を確認した上で、体調を維持し穏やかな生活ができるような介護計画を作成している。	介護計画は、本人・家族の希望を聞き作成している。生活チェック表や生活記録等を含めた利用者の介護記録、医師による医療面での指導などを受けながら、意見交換を行い見直しに活かしている。今後は、状況を見ながら、家族参加でのサービス担当者会議開催を検討中である。	家族参加でのサービス担当者会議を検討中である。医師の意見や説明、担当職員の声を聞きながら、利用者の状態を実際に見てもらい、ホームと家族、両輪で支援する取り組みに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には、本人の話された言葉や行動を具体的に記録している。常に職員間で情報共有し、実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科医師、歯科衛生士による衛生指導、ケアも取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移送、付添いサービス機関との連携、調整。地域資源の紹介等により、安全で豊かな生活ができるように支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同意を得て、同法人内の医師が毎週訪問診療、往診を行っている。医師からは家族へ診療計画書の提供があり、必要時には面談を行い専門医への受診もされている。	契約時に、かかりつけ医についての説明をしている。同法人の医師による往診があり、担当職員、看護師が連携しながら、利用者の状態を報告し、適切な指導を受けている。歯科医の訪問診療もあり、その他専門医への受診は家族が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が正規職員で日中勤務しており、夜間は宅直を行っている。日常の関わりの中で気づきを看護師へ報告し、医師への情報提供を行い、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	急変時の受診には、適切な治療が受けられるように看護師が付き添っている。入院時には介護看護情報提供書や電話にて情報の提供を行っている。地域連携室と密に連絡をとり、入院中病院の主治医との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に緊急時、終末期の意思確認を行っている。入居後の早い時期に、かかりつけ医と家族との面談を行い、診療計画を確認し、その後重度化や終末期にもその都度、医師からの説明がある。	重度化や終末期の支援については、契約時に説明し、同意を得ている。職員も、看取りの研修を重ねている。利用者の状態に変化があった場合は、早い段階で関係者で話し合いを行い、家族が希望する場合は、医師の意見と指示を受けながら、看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時には看護師に速やかに報告する連絡体制を整えている。常日頃から、かかりつけ医、看護師との連携がとれている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練、土砂災害訓練を実施している。連絡網には区長の連絡先も含まれており地域との協力体制を築いている。	防災訓練は、火災、地震、土砂災害などを想定し、定期的に訓練を行っている。連絡網を充実させ、近隣との協力体制を築き、備蓄も完備している。訪問調査の数日前には、大雨で飛騨川が氾濫危険水位を超え、市全域に避難指示が発令された為、高台にある同法人介護老人保健施設に避難を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した対応に心掛け、その人その人に合った言葉かけに注意している。	職員が支援をする際に、利用者には「見られている事を意識させない」ケアが大切であると考えている。飛騨弁の温かさと親しみを込めて声かけし、利用者一人ひとりの立場に立って、プライバシーにも配慮しながら、求められるケアが行えるよう取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、表情の変化を観察しながら、意思表示できるような言葉かけに気を付けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調に合わせ、無理強いはいしないよう、その人のペースに合った支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室では、好みのヘアスタイルになるよう支援している。起床時には鏡の前へ誘導することで、鏡を見ながら洗顔後にクリームを塗られ、ヘアブラシで丁寧に整髪されている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人その人に合った食器、持ちやすい食器の大きさ深さを選んでいる。食欲に合わせて盛付け量も変えている。自己にて下膳できる方はカウンターまで届けて下さる。	食事は、三食共に手作りで提供している。専属の調理員も配属され、必要な時に職員配置を行い食事作りを行っている。利用者個々の状態にあった食事形態や、希望を聞きながら、全員が完食出来るよう盛り付け量も工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量、水分摂取量のチェックと、嗜好を記録している。体重の変化食欲低下が見られた時は、居室担当、看護師、ケアマネジャーとケアカンファレンスを開催している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療があり、毎月、歯科医師より口腔ケアの指導、助言を受けており、その人に合わせたケアをしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表より一人一人の排泄パターンを把握して排泄介助を行っている。失禁量に合わせて使用するパットの種類を検討している。定期的なケアカンファレンスでもケアの見直しをしている。	排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けと誘導を行っている。また、トイレでの排泄が習慣となるよう支援に努めている。排泄用品は、利用者の状態や尿量に合わせて使い分けし、本人負担費用の軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、朝食前に牛乳や豆乳を提供している。食事摂取量や水分摂取量と排便状態を記録し個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定日に気分が乗らず拒否される時には後日お誘いしている。入浴剤を使ったり、ゆず湯、紅葉湯、菖蒲湯等でも楽しんで頂いている。	入浴は週2回を基本としているが、利用者の希望で柔軟に対応をしている。入浴剤を使ったり、ゆず湯や菖蒲湯など季節の湯で気分転換も図っている。重度化に対応できる機械浴も設置されており、利用者の状態に合わせた入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたいと言われる希望時に臥床されている。各居室に温湿度計が設置しており、室内の照明や室温調整している。冬場は足元だけ温める方や電気毛布が必要な方等、個々に合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は最新情報をユニットの個人ファイルに綴じてあり看護師からの説明と伝達にて全職員が理解できるようにしており、症状の変化が見られた時には速やかに看護師へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の談話の中で楽しみ事を見つけ出すようにしている。その人その人が好まれる軽作業を用意している。おやつ時に好みのドリンクを選択。希望時に家族への電話対応をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内での職員との散歩は可能であるが、コロナウイルス感染症対策中にて家族との外出支援は控えてもらっている。病院受診の方は家族と外出されている。	以前は、近隣の喫茶店やケーキ屋さんに、モーニングやランチに出かけたり、家族と出かける事も多く、様々な外出を楽しんでいた。現在は、新型コロナ感染予防の為、外出を控え、敷地内を散歩したり、車いすや歩行補助具等でリハビリを兼ねた運動など、気分転換できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染症対策中にて外出できず今はお金を使う機会が無い。家族の了解の下で所持されている方もある。必要時には立替えて使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を毎年出してもらえよう、書けない方には代筆して支援している。希望時には電話の対応をしている。家族からの葉書や手紙が届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭先に咲く季節の花を生けたり季節感のある掲示物がある。温湿度計が設置してあり快適になる様に室温調整をしている。個々の好まれる場所に腰掛けてもらえるようリビングの数か所にソファが設置してある。	今回は、感染予防対策の為、窓越しからの見学となった。リビングや廊下の窓が大きく、共用空間は明るく広い。車椅子や補助具等が必要な利用者も、安全に移動ができる。対面式のキッチンには、利用者が自然に集まっている。快適な空調管理と共に、換気を行いながら感染対策に努め、知人や家族と窓越しの面会やオンライン面会を実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合わない方とのトラブルに注意し、テーブル席の配置を工夫している。好まれる場所のソファにて気の合う方と過ごされる方もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや使い慣れた物を持ち込まれ、以前の生活と似た環境になるような配置を心掛けている。	居室への入室はせず、窓越しの見学、写真での確認となった。各居室の玄関、床、照明器具が異なり、利用者が自分の部屋が分かりやすいよう工夫されている。使い慣れた家具を持ち込むことができ、好みのカーテン、好みの部屋を工夫し、自立した生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室がわかるように名札の文字をその人に合わせて読める大きさにしてある。廊下には二段の手すりトイレには複数の手すりがあり安全な環境整備がされている。		